

平成 27 年度第 1 回自動車整備技能登録試験〔実技試験〕

第 91 回〔三級自動車ガソリン・エンジン〕

平成 28 年 1 月 17 日

32 問 題 用 紙

受験番号	受験地	回数	種類	番 号	氏 名	※
		9 1 3 2				

※試験説明で
指示された
者のみ記入

【試験の注意事項】

1. 受験票又は受付番号票に記入してある受験番号及び氏名を、該当欄に思考席で記入しなさい。
2. 各問題の確認結果、測定結果及び解答は、問題用紙の該当欄に記入しなさい。ただし、思考席では記入しないこと。
3. 故障を設定している問題については、問題中に特段の指示がない限り、重複故障はないものとします。
4. 試験中、各部品は、台上で点検等を行って下さい。
5. 問題用紙の余白部分には、自由にメモすることができます。
6. 試験終了後、この問題用紙を回収します。

【不正行為等について】

1. 携帯電話、PHS 等の電子通信機器類は、試験会場に入る前に必ず電源を切って、カバン等に入れておいて下さい。
2. 試験時間中(試験会場内)において、携帯電話、PHS 等の電子通信機器類を使用した場合は、不正の行為があったものとみなし、試験を停止し、又は、その試験を無効とすることがあります。
3. 登録試験に関して不正の行為があったときは、当該不正行為に関係ある者について、その試験を停止し、又は、その試験を無効とすることがあります。

この場合において、その者について、3 年以内の期間を定めて登録試験を受けさせないことがあります。

問題 1 台上にあるピストンとコンプレッション・リングについて、次の各問に答えなさい。
また、必要事項は、台上の留意事項に示してあります。

問 1 2本のコンプレッション・リングのうちトップ・リングを選択し、シッケネス・ゲージを用いて、トップ・リングとリング溝のすき間を測定し、測定値を該当欄に小数点以下第2位まで記入しなさい。

測 定 項 目	測 定 値
トップ・リングとリング溝とのすき間(最大値)	mm

問 2 マイクロメータを用いて、指定された位置でピストンの外径を測定し、測定値を該当欄に小数点以下第2位(小数点第3位以下を切り捨て)まで記入しなさい。

測定項目	測 定 値
ピストン外径	mm

問 3 ピストン・リング・リプレーサを用いて、ピストンにコンプレッション・リング(2本)を組み付けた後、この2本のリングを留意事項で指示した合い口位置の状態です台上に置き、試験委員に申告して確認を受けなさい。

問題 2 台上にある LLC(ロング・ライフ・クーラント[以下 LLC という])及びチャコール・キャニスタについて、次の各問に答えなさい。

また、必要事項は、台上の留意事項に示してあります。

問 1 バッテリ・クーラント・テストを用いて、LLC の濃度及び凍結温度を測定し、測定値を該当欄に整数で記入しなさい。

測定項目	測定値
濃度	%
凍結温度	℃

問 2 ハンド・バキューム・ポンプを用いて、チャコール・キャニスタの通気の点検をし、点検結果について該当欄の有・無の何れかを○印で囲みなさい。

点検項目	点検結果 (通気の有無)
A — B間	有 ・ 無
A — C間	有 ・ 無
B — C間	有 ・ 無

問題 3 台上にあるスパーク・プラグ、及び水温センサについて、次の各問に答えなさい。
また、必要事項は、台上の留意事項に示してあります。

問 1 スパーク・プラグ・ギャップ・ゲージを用いて、スパーク・プラグのギャップを測定し、測定値を該当欄に小数点以下第1位まで記入しなさい。

次に、スパーク・プラグの電極の状態を点検し、下表の該当欄の中から電極の状態を三つの中から一つを選んで、○印で囲みなさい。

測定部品	測定値	電極の状態
スパーク・プラグ A	mm	・正 常 ・くすぶり ・破 損
スパーク・プラグ B	mm	・正 常 ・くすぶり ・破 損
スパーク・プラグ C	mm	・正 常 ・くすぶり ・破 損
スパーク・プラグ D	mm	・正 常 ・くすぶり ・破 損

問 2 デジタル・サーキット・テスタを用いて、水温センサの抵抗を測定し、測定値を該当欄に小数点以下第1位(小数点第2位以下を切り捨て)まで記入しなさい。

次に、留意事項の水温センサの抵抗特性図から、測定値に相当する水温を読み取り、該当欄に整数で記入しなさい。

測定項目	測定値	読み取り項目	読み取り値
抵 抗	kΩ	水 温	℃